

普遍的な育児の営みの過程の中にヒント

先日の母子通園施設の午後の講話の折り、午前中保育を見学させていただいた。広汎性発達障害と云われる十数名の幼児たちのグル - プ。

室内で、保育士のプログラムに参加せず周りを走り回る子ももちろんいた。その一人の A 君とあれこれ係わっていると、私の膝に何度か座るようになってくれた。後で聞いたが、母もスタッフも「(A 君) 初めての人の膝によく……」と私を眺めていたとか。

また、プログラムの一つで、隣接する通園施設で砂場遊び。丁度、通園施設の広汎性発達障害の幼児たちも遊んでいた。見学しがてら、B 君に近づき係わり合った。その内、B 君は、他の幼児の遊びを見る私を「自分と遊ぼう」というかのように私の手を引っ張ることが何度か見られ、帰り際も遊びを続けようと言うかのように、手を引っ張ってくれた。

後で聞いたが、ここでもスタッフ同士「(B 君は) 初めての人によく……」と、ここでも眺めていたとか。

両君の日頃の行動を私は知る由もなく、ほんの一時の係わり合いであったが、子どもに受け入れられる係わり合いが出来、両君が、私に自分の感性がまだ鈍っていないことを確認させてくれて嬉しかった。

後である保育士から、「何を意識しつつの係わり合いだったのか？」と聞かれた。

特に「広汎性発達障害だから」とは意識はしなかった。

ただ、母親がまだ言葉をもたない乳幼児と係わる時の係わり合い方を、参考にしているだけである。つまり、その時々その状況でのその子の心情をあれこれ推測して、その心情であろうと思うことを子どもサイドに言語化して、身振りを交えながら係わり合っていただけである。

自閉症は、最近では、広汎性発達障害と呼称されている。この呼称は、要は中枢神経系に問題があり、その表出としての行動に特徴が見られることからの総称に過ぎないと思う。

そうであればなおのこと、その子の行動をよく観てその行動と係わり合い、その行動がより高次の行動に変革するように係わり手が工夫するしかない。

その参考となるのは、普遍的な育児の営みの過程の中にヒントはある、と私は思っている。

A 君、B 君とせっかくの係わる機会から、両君たちの行動から、普遍的な人の行動獲得過程を理解するヒントがあればと思いつつ、ほんの一時であっても、そうした私のスタンスで淡々と係わり合っていたというだけの話である。